

つたえる地域 つながる地域

コロナ下、高坂さん(ハ学)スペースベンで一人芝居

対策万全充実の演技

ハ学

新たな生活様式で観劇を。八戸市の多目的スペース「スペースベン」で17日、八戸学院大4年で演劇部の高坂大誠さん(ハ学)による一人芝居が上演された。公演に当たり、新型コロナウイルス感染症対策として、観客数を8人に抑え、客席の間をビニールシートで仕切るなどして、青森県内で先駆けて、演劇の再開に踏み切った。関係者らは「舞台をつくる人、見る人にとっても希望の光」と、演劇に再び親しめることを喜んでいる。

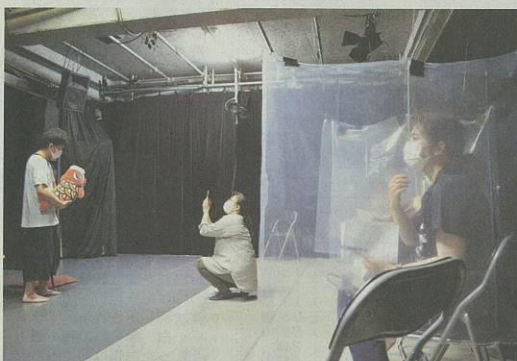
(小林彩乃)

客席間に仕切り 客数も制限

同スペースでは客席間が初めて。観客として「ゴイの予感」に検温と手指消毒をしてもらったりするなどの対策を取った上で、6月からダンスの公演を行ってきた。ビニールシートの仕切りを作ったのは今回



生き生きとした芝居を見せる高坂大誠さん



客席間にビニールシートを設置した会場

観客も久しぶりの生の芝居を存分に楽しんだ様

子。観劇した南部町の会社員江刺家佐智子さんは「最初はビニールシートのある会場に慣れなかつたけど、作品が始まると物語に集中でき、気にならなくなった」と話した。

高坂さんは「感染対策をしながらの演劇の上演は、地域ではあまりないことなのでフレッシューはあったが、今持っている力は出し切った」と充実感をにじませている。

同スペースでは感染対策をしながら、8月14、21、28日にも県南地方の役者たちによる短編を上演する予定。